

創業以来130余年、大成建設は「人がいきいきとする環境を創造する。」を使命に発展を遂げてきた。その高い理念と技術力を支えるのは多士済々のマンパワー。頼もしい10名の精鋭たちの仕事を5回にわたって紹介する。最終回を飾るのは、工場建設と都市開発の分野で腕を奮う2名。共に大学時代に学んだ経験が現在につながっている。

[大成建設] ⑥ 夢をカタチにする舞台

File 010
企画開発

終点なき追求の醍醐味 学生に思いを伝えたい

入社以来、都市開発事業に専念しているのが広井義政課長代理だ。なんだかすごい仕事らしいと思うが、門外漢には具体像が想像しにくい。

「皆さん“何やってるの?”と(笑)。開発は業務が多岐に渡り過ぎて説明が難しいんですよ。事業の企画・立案から地権者の権利調整、許認可に関わる行政折衝を整理しながら、総合的にプロデュースします。提案だけで3年くらいかかる場合もありますね。事業の種類も様々ですが、大成建設が得意とする市街地再開発事業では、多くの権利者さんの意向をまとめて、皆さんが望む開発の姿を模索していく。長い道のりですね」

都市開発というスケールの大きな響きの裏には、コツコツと根気のいる作業の積み重ねがあったのだ。

高校まではサッカー漬けの毎日だった広井課長代理だが、「大きな建物や街を造ってみたい」と考え、大学では建築を専攻。社会に大きな影響力を持つ都



都市開発という仕事は、地図を塗り替える一大プロジェクト。



市開発に惹かれていった。

「大成建設が手掛けた東京・恵比寿ガーデンプレイスや横浜のみなとみらいに憧れました。街に夢と賑わいを創出するのが開発の仕事なんですよ。だから私は開発を得意とする大成建設を選びました」

描いた夢が実現し、大規模な都市開発を手掛けるようになった今、その面白さを「終わりのない追求ができること」だと考えている。

「自分たちが一生懸命検討して形にしたものが、皆さんにどんな印象やインパクトを与えたのか。実際に人が利用している場面を見て、良いところ、悪いところを検証し出すとキリがないんです。正解がないからこそ、常に勉強して発展させていかないと」

求道者のごとき真摯な姿勢に、話を聞くこちらも思わず背筋が伸びる。

オフは大好きなサッカー三昧で発散しているが、時には母校に呼ばれ、学生相手に仕事の話をすることも。

「大学でいい勉強をさせてもらったので、フィードバックするのも役割かなと。自分も逆の立場だったから分かるんですが、学生はやっぱり具体的なことが知りたいんですよ。授業で提案書をたくさん書いても、本当に役に立つのか、半信半疑なんです。でも、そういう作業は無駄ではなく、実務に必ず活かされているし、一つひとつの知識の積み重ねや、考えることが大切だ、と話す学生は関心を持ちます。準備とビジョンをしっかり持って臨めば、必ず夢は実現できると伝えたいんです」

自分の“地図に残る仕事”

入社2年目/東五反田二丁目第1地区市街地再開発事業に携わる。複雑な再開発事業の実務を経験する。

入社5年目/自ら企画提案を行ったプロジェクトが実を結ぶ。

サンポート高松シンボルタワーの事業コンペに当選。

現在/中央官庁で初めてのPFI手法による官民共同ビルを手掛ける。

霞が関都市再生プロジェクトの竣工に向けて開発実務推進中。

File 010 企画開発

都市開発本部
PFI推進部
課長代理

広井 義政
Yoshimasa Hiroi

File 009
施設建築

人を導くハードル 越えて成長を実感

「子供の頃からの夢でした」。大リーグ挑戦を表明するプロ野球選手が、よく口にするセリフだ。初志貫徹大いに結構。だが往々にして夢は変化するもの。エンジニアリング本部で医薬品製造工場のエキスパートとして活躍する小牧啓志シニア・エンジニアの場合、本人は覚えてないようだが、幼い頃に夢見たのは大工だったらしい。壁に家の間取りを落書きしては家族から怒られていたようだ。「でも小学生の時に、夢は“プロ野球選手”になってましたね(笑)」

そんな夢見る小牧少年に転機が訪れたのは大学時代。経営工学科で工場研究のゼミに所属したのがきっかけだ。「工場というと普通は建物をイメージすると思うのですが、中での作業工程をどう考えるかが大事なんです。ゼミでは実際に製造工場へ行って、ストップウォッチで人の作業に掛かる時間などを計ったりして、いかに効率よく無駄な作業をなくせるか、同じ設備でも配置を換えたらどうなるかを計算して、レイアウトを考えるのが面白くて」

そして、小牧氏が就職活動をしている時、工場機能から提案するエンジニアリングに力を入れていたのが大成建設だった。晴れて入社後は、医薬品部門を中心に、生産工場の企画・設計・施工まで一貫して携わっている。

「まずはお客様の立場で、何が問題になっているかを考え、それを解消するものを

提案します。それからは各部門との調整ですね。大成建設には建築や設備の優秀なエンジニアがたくさんいますから、僕はそれぞれをつないで形にしていく、旗振り役です」

最近、大きな薬品工場の建設で初めてプロジェクトリーダーを経験し、上に立つ者の難しさを痛感した。

「お客様に対して責任を持つ立場にあるのはもちろんですが、部下への指示の出し方には悩みましたね。目先のことしか考えられなくなって、長期的展望が持てない。皆に迷惑をかけました。しかし、そのおかげで、絶対に一步成長したと思うんです。ひとりで仕事を抱え込まずに、うまく割り振るよう考え方を換えられるようになりました」

最先端の工場作りに関わりたという思いが実を結び、がむしゃらに仕事をこ



社内の他部門との折衝にも、多くの時間を割く。

なすうち、新たな視野が開けてきた。組織の中で働くことの難しさや手応えを実感する一方で、単身赴任や出張で家を空けることが多く「家族は仕事ばかりしてると思ってるみたい」と苦しい。3人の子供と過ごす休日を何よりも大切に思う。「下の娘には“今度いつ来るの?”とか言われますが(笑)、オフは必ず家族と一緒にいるようにしています」

優しいお父さんの顔になった。



File 009 施設建築

エンジニアリング本部
生産・物流施設グループ2
シニア・エンジニア

小牧 啓志
Keishi Komaki

自分の“地図に残る仕事”

入社1年目/新入社員研修の一環として鳥羽水族館水処理施設で研修。

大成建設はジュゴンの水槽も作るのかと感動。

入社5年目/初めて担当した固形製剤工場が完成。製造工程を一連で経験。建設した工場が地図に載る。

現在/受注活動から担当した固形製剤工場が完成。

本社にて、次のプロジェクトに向けて始動開始。